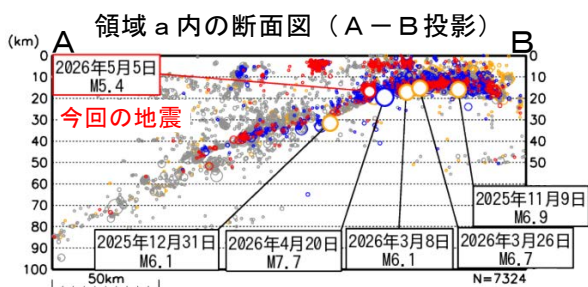
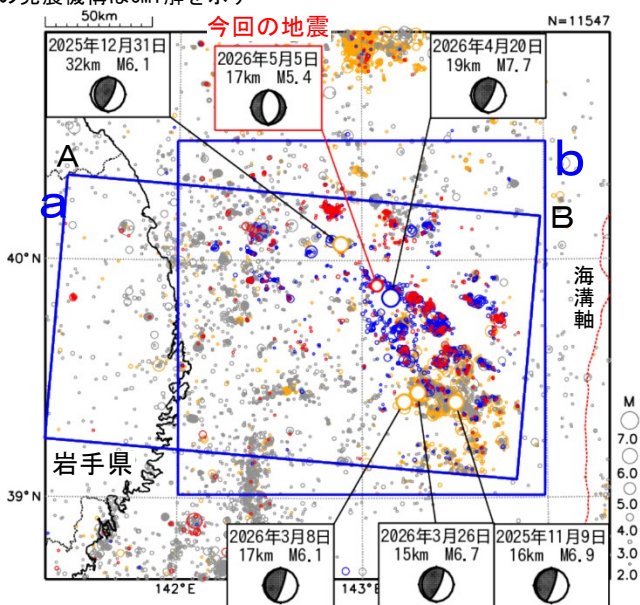


5月5日 三陸沖の地震 (2025年11月からの三陸沖の地震活動)

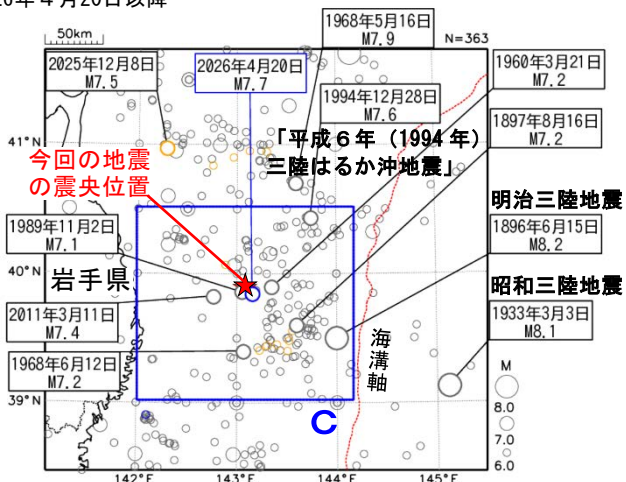
震央分布図
(2020年9月1日～2026年5月31日、
深さ0～100km、M \geq 2.0)

○2020年9月1日～2025年10月31日 ○2025年11月1日～2026年4月19日
●2026年4月20日～2026年4月30日 ●2026年5月1日以降
図中の発震機構はCMT解を示す



震央分布図
(1885年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～100km、M \geq 6.0)

○1885年1月1日～2025年10月31日 ○2025年11月1日～2026年4月19日
●2026年4月20日以降



震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津(2001)、宇津(1982, 1985)による。

宇津徳治(1982): 日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表: 1885年～1980年, 震研彙報, 57, 401-463.

宇津徳治(1985): 日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表: 1885年～1980年 (訂正と追加), 震研彙報, 60, 639-642.

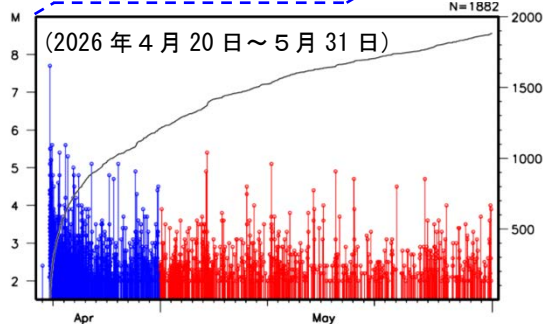
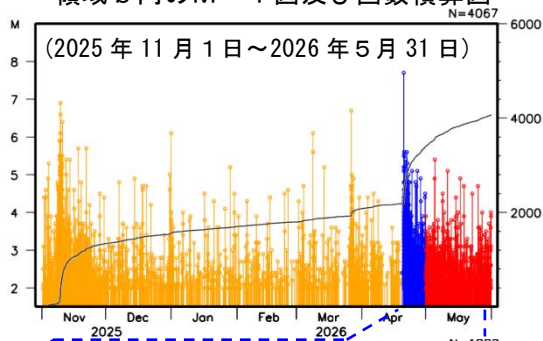
茅野一郎・宇津徳治(2001): 日本の主な地震の表, 「地震の事典」第2版, 朝倉書店, 657pp.

2026年5月5日08時54分に三陸沖の深さ17kmでM5.4の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が東西方向に張力軸を持つ正断層型である。

今回の地震の震央付近(領域b)では、2025年11月4日からまとまった地震活動が見られるようになり、11月9日にはM6.9の地震(最大震度4)が発生した。その後も活動は活発で、M6.0以上の地震が度々発生していた。2026年4月20日にM7.7の地震(最大震度5強)が発生すると、地震活動はさらに活発となった。

領域bでは、5月1日から31日までに震度1以上を観測する地震が16回(震度3:1回、震度2:3回、震度1:12回)発生しており、地震活動が活発な状況が継続している。

領域b内のM-T図及び回数積算図



1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域c)では、M7.0以上の地震が時々発生している。1896年6月15日にはM8.2の地震(明治三陸地震)が発生し、死者21,959人などの甚大な被害となった(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域c内のM-T図

